

請願第3号 国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を求める請願に対する報告書

請願者 福知山市北本町二区159 福天教育会館内
福知山の子どもと教育を考える会（福知山教育ネット）
代表 夜久弘明氏
紹介議員 吉見純男議員

1 請願の要旨及び目的

教育現場において新型コロナウイルス感染防止対策を行う中で、20人程度で授業を受けられるようにすることが、感染拡大を防ぐとともに、豊かな学びの実現につながることで実感された。多くの自治体では独自に少人数学級が実施されているが、地方に負担を押しつけることなく、国が責任を持って少人数学級の前進と、そのための教職員定数改善を行うことが重要である。

ついては、下記の事項に関して、国に対する意見書の提出を求める。

- ① 子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に20人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員増と教室確保を国の責任で行うこと。
- ② 「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、標準法を改正し教職員定数改善計画を立てること。

2 請願の議決理由

本委員会は、当請願に関し12月15日に委員会を開催し、慎重に審査した結果、次の結論に達した。

採択とする討論

- ・ 1学級あたりの児童生徒数と教職員の定数は法令で定められていることから、教職員増と教室確保は、まさしく国の責任で行うことである。今、政府はコロナ後の学校のあり方を検討しており、全国各地から今こそ意見書を上げることが、少人数学級を実現する大きな力になると考え、本請願に賛成する。

不採択とする討論

- ・ 40人の上限を20人にするということは、必要となる教職員や教室の数が圧倒的に増えることになり、職員室を大きくしたり、新たに教室を造ったりと、学校施設のあり方という根本的な問題に入っていく。国の財政事情の詳細は分からなくとも、かなり現実とは乖離した要望であると考え、願意には賛同し難い。

採決 賛成少数で不採択

本請願の願意については添いがたく、よって不採択と決した。
以上、報告する。

令和2年12月23日
福知山市議会議長 芦田 眞弘 様

福知山市議会教育厚生委員会
委員長 中嶋 守